

平成27年第3回牧之原市議会定例会 行政報告

平成27年第3回牧之原市議会定例会の開会に当たり、当面する市政の重要な課題に関し、所信の一端を申し上げます。

まず市民の安全安心についてであります。

初めに、懸案事項であった大江地内において廃冷蔵庫のウレタン等が積み上げられている件についてであります。これまで当該事業者の株式会社アシストネットワークに対しては、廃冷蔵庫の受入れや解体行為を中止するように再三指導してまいりました。

しかしながら、一向に改善が見られないことから、まずは、受入れを止めることが最優先と考え、県や同様の事案を抱える袋井市、掛川市とともに刑事告発に踏み切り、先般8月27日に被告発人の逮捕に至りました。

現場では、有害物質等の流出は確認されておりませんが、廃棄物に引火した場合は大規模な火災になる可能性があり、また、生活環境保全上の支障が生ずる恐れもあることから、廃棄物の全量撤去に向けて、廃棄物処理法に基づく措置命令を準備しております。早期の問題解決を目指して努力してまいります。

次に、8月30日に実施した総合防災訓練につきましては、前日に地震が発生したことに加えて、当日朝からの降雨状況の確認、水防体制への切り替え等により、緊張感を持った実践的な訓練となりました。発災時には、複合的な事案が発生することは十分想定できますので、どのような状況でも対応できるよう訓練を重ねてまいります。

12月の地域防災訓練におきましては、合併以来初めて自衛隊からの派遣を受け、自衛隊の機動力や組織力を展示いただくとともに、市民と一体となった防災訓練を展開したいと考えております。

また、8月11日に九州電力の川内原発が再稼働されましたが、市といたしましては「浜岡原発については、再稼働することなく永久停止すべき」との考えに変わりなく、国・県等に対して、高レベル放射性廃棄物の処理や実効性ある広域避難計画についての対応を求めてまいります。

今後も、市民の安全安心を確保するため、地震・津波対策も含め、市民を交えた災害に対する学びの場や機会を設け、防災対策を更に充実してまいります。

次に、夏の賑わいについてであります。

今年の夏を振り返りますと、花火大会をはじめ、地区や企業の納涼祭、市制10周年関連事業など、例年に増して賑やかで活気あふれる夏であったと感じました。

また、新たな取り組みとして地方創生先行型交付金を活用した「KIDSTOWN ぼくらのまちのはら」と「イングリッシュ・キャンプ」が行われました。

「KIDSTOWN ぼくらのまちのはら」は、子どもたちだけでまちをつくり、社会の仕組みを学び、地域の人や仕事に触れることで子どもたちが牧之原市にさらなる愛着を持つことを目的としています。また「イングリッシュ・キャンプ」は、低学年から英語に慣れ親しみ、外国文化に触れることにより、国際社会に必要な資質やコミュニケーション能力を養うことを目的として実施いたしました。

いずれの事業にも将来を担う多くの小中学生の参加があり、大変良いものであったと感じております。また、この成功は様々な分野の多くの方が関わっていただいた成果であるとあらためて感謝しております。

市の夏の象徴であります海水浴場につきましては、夏らしい天候に恵まれ、静波海水浴場とさがらサンビーチ、両海水浴場の入込客数は53万7千人、前年対比で15万9千人、率にして42%の増加となりました。

また、牧之原市の海岸では、海水浴とともに年間を通して多くの若者がサーフィンを楽しんでおりますが、2020年開催の東京オリンピックにおきましては、競技種目の最終候補にこのサーフィンが選考されているところです。

静波海岸ではこれまで全日本選手権大会の開催や日本サーフィン連盟主催のナショナルチーム強化合宿会場となった実績もあることから、市では、事前合宿地としてエントリーすると共に、サーフィンの東京オリンピック正式種目を応援する首長連合に加入し、誘致の実現に向けて取り組んでおります。

実現すれば大きな地域経済とPR効果が期待できることから、今後も、県及び近隣市と共に積極的に誘致活動に努力してまいります。

去る8月28日まで開催されておりました第69回全国茶品評会の深蒸し煎茶部門において、牧之原市が産地賞を受賞いたしました。合併後初の受賞であり、産地が一体となって品質重視の生産に取り組んできた努力が報われた市制10周年に花を添える大変うれしい出来事であります。

この受賞を機に、静岡牧之原茶の品質の高さを茶業界と行政が一丸となってアピールし、茶業を一層盛り上げてまいります。

次は、総合計画の推進についてであります。

第2次牧之原市総合計画がスタートして6か月が経過いたしました。地方版総合戦略につきましても、策定のプロセスやいち早い策定により日本全国から注目を浴びているところであります。

また、今回の補正予算におきましても地方創生先行型交付金を活用した事業を提案させていただいたところであります。総合戦略の推進は、総合計画における重点プロジェクトの推進となりますので、今後も国の交付金を活用し積極的な事業展開をしてまいります。

総合計画における重点プロジェクトの進捗状況についてであります。公共施設最適化プロジェクトにつきましては、平成26年度に公共施設白書を作成し、公共施設の現状を整理するとともに、長期に渡る維持管理経費等を積算してまいりました。今年度は、施設分類毎の方向性や短期間で具体的に計画を立てて進める先導的な施設を明確にするため、基本計画を策定したいと考えております。

この基本計画の策定に当たりましては、本年9月から12月にかけて多様な市民が意見を交わす対話の場を開催し、参加者が学びや気づきを共有しながら20年後の将来に向けて公共施設を具体的かつ賢く活用するための方向性を整理していきたいと考えております。

輝く高台開発プロジェクトにおける東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側の開発につきましては、現在、開発手法や事業方針等に関して、国や県等と相談しながら、事業調整を行っております。

今後、茶業をはじめとする地域産業の振興、安定した雇用の確保、定住人口の増加、災害に強いまちづくりなど、市全体にさまざまな効果を及ぼす取り組みとするため、基本構想や土地利用計画等の策定を進めてまいります。

宝子ども育成プロジェクトの取り組みとしては、この10月から子ども医療費の無料化を実施いたします。

また、待機児童の発生をなくすため、認定こども園の整備を行う法人などを支援するとともに、今回の補正予算にも上程させていただきますが、菅山保育園の乳児等の受け入れ人数を増やすための改修事業を実施したいと考えております。

先ほど申し上げました「KIDSTOWN ぼくらのまちのはら」や「イングリッシュ・キャンプ」も宝子ども育成プロジェクトの取り組みとなりますが、将来を担う子どもを生き育てやすい環境づくりを進め、子育て世代への支援や地域で子育てを支える仕組みづくりに取り組んでまいります。

今後におきましても、総合計画に位置づけした重点プロジェクトのほか、実施計画に搭載した事業につきましても検証・評価を繰り返し、より効果が出るようスピード感をもって実施してまいります。

最後に、平成26年度の決算についてであります。

本定例会には、平成26年度の一般会計など、各会計の決算がまとまりましたので、関係議案を提出させていただいたところであります。

一般会計の歳出の決算規模は約186億3,000万円で、平成25年度と比較して6.4%、11億2,000万円の増額となりました。

決算の特徴としては、歳出では、航空機格納庫建設に対するふるさと融資貸付金や津波避難タワーなどの津波防災まちづくり事業が本格的に着手したことにより、大幅な増額となりました。

一方、歳入においても、景気の回復により市税が平成25年度と比べ5億3,000万円の増額となり、5年ぶりに80億円台となりました。

財政調整基金も5億円積立てることができ、基金残高は30億円を超えました。実質公債費比率は、平成25年度より2.2ポイント低下して14.8%となり、財政健全化に向けて着実に前進している状況であります。

市制10周年を祝う記念式典も近づき、記念事業も順次実施されております。

牧之原市が誕生して10年を一つの節目として、第2次総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進により、私たちが目指す将来のまちの姿「絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEX Tまきのはら」の実現に向けてさらに努力を重ねてまいります。

以上、所信の一端について申し上げます、行政報告といたします。

平成27年9月2日

牧之原市長 西原茂樹